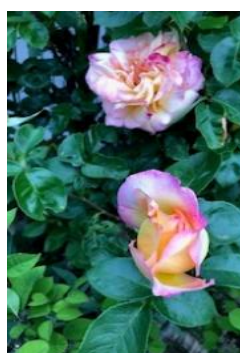


2学期が始まった。この夏は、7月末の直前まで長雨で、太陽の光が恋しい日々であったが、いきなり夏が到来した。その後は太陽のあの恋しさを通り越し、暑すぎて閉口する日々となった。畑の農作物も水不足で日に日に元気がなく、長雨で伸び切った草を刈ろうにも暑すぎて休日の日中は畑に出られないことも度々であった。

夏休みに入り、生徒たちの補習授業も徐々にエンジンがかかり、各部の活動も活気を帯びるようになった。夏休み前に幾つかの部活の代替大会が行われた。多くの部で、それまでたまっていたエネルギーを放出し試合での活躍の一部を目にした。生徒たちが真剣勝負する姿に大きな元気・勇気をもらい、若者には真剣に取り組む機会の数が多いほど成長するきっかけとなる。成功や失敗、勝った嬉しさや負けた悔しさなど心をゆさぶる体験を通し大きく成長することを実感した。だからこそ教育の体験的場と時間は大事なのだと痛感する。



庭バラ その1



庭バラ その2

新型コロナウイルス感染状況が、人々の期待とは逆に大変な広がりを見せている。いつ、どこで、だれが感染してもおかしくない状況となってきた。生徒一人ひとりは、登校する前に家庭などでの生活があり、人は生きるため働き、食事し、休養をし、人と会話して毎日を送っている。目に見えないウィルスにどれほど気を付けていても、本県にもじわりじわりとにじり寄り、感染経路不明の広がりを見せている。

2学期始業式では、改めて全校生徒諸君に、感染防止のために一層気を付けて生活することを話した。生徒たちが成長するための学習機会も、運動に取り組む機会も、文化活動に取り組む機会も、完全に無くし終わらすことはできない。本校に通っている生徒たちが、将来にわたって各自の可能性を開く成長のチャンスが与えられなければならない。命と健康を守ることを第一としながら、教育活動で成長の機会を保障するバランスを取る難しさの中で、一層の責務を感じている。

飯綱高原で学習合宿で真剣に勉学に取り組む生徒の姿を直接見ることができた。発表する機会を失っていた軽音楽部の生徒諸君のコンテストも参加させていただいた。感染防止のため検温、ボーカル外はマスク着用、もちろん無観客の中である。各バンドは1曲のみの発表であった。三年生はこれまでの背景を感じさせる自信あふれる発表であったし、下級生も緊張の中で精いっぱい今の自分を表現し、今後の可能性を大いに感じさせてくれるとても良い時間が流れた。連日の猛暑の中で、人工芝グラウンドではサッカー部や野球部が、テニスコートでは男女ソフトテニス部が、アリーナではバドミントン部やバスケットボール部が汗を流す姿を見た。その



材ダマリ

他の部も先生方の報告から、足を運び汗を流した姿を思い浮かべた。本校生徒たちが自分の好きなことに打ち込む真摯な姿を大切にしなければならない。

1学期終業式時、コロナ前の生活が良いと思いがちだが、それは本来の理想の姿であったか、コロナとともにある今、コロナ前に見失っていた無駄やダメだったところを見つめ直して過去を改善し、時間や機会が限られている今、より高い次元の生活を目指そうと話した。若い時代はその後の人生の土台を形成する大事な時である。高校はその入り口で、学んだことを実践に生かし社会で自分が果たして本当に通用するかどうか、それが実感できる自立(自律)した大人になるまでが大事な時間だ。そのために今をより正しく行動し、より正しい言葉を発し、より正しい心を保ち、生徒各自がそれぞれの人生の方向性を見極めて、将来につながる精進した日々を、この2学期をより充実して過ごしてほしいと願っている。



更農のペラルゴニウム